

同志社大学

同志社社史資料センター報



第9号
2012年度

1. 巻頭言:2012年度の報告にあたって
2. コラム:2012年度を終えて
3. 資料業務
4. 展示
5. 公開講演会・シンポジウム
6. 研究活動
7. 第170回新島襄生誕記念会
8. 新島旧邸
9. 委員会

2012年度の報告にあたって

同志社社史資料センター
所長 布留川 正博

今年1月からNHK大河ドラマ「八重の桜」が始まっている。これに先立ち、昨年9月から福島県白河市、二本松市では「新島八重の生涯と戊辰戦争」展が開催され、また、同時期に若松城天守閣郷土博物館では「京都守護職拝命百五十年と新島八重」展が開催され、社史資料センターからは両展示に対して資料提供を行った。また、江戸東京博物館においても今年3月からのNHKによる特別展「八重の桜」にも数多くの資料を提供している。

これと並行してハリス理化学館では第42回Neesima Room企画展「会津と八重——八重を育てた故郷」が3月26日から始まっている。この展示物の大半は、会津からお借りした、いわば会津の至宝である。来館者は4月22日現在ですでに8,769人に達している。また、昨年9月から始まった「新島旧邸特別公開」には事前予約制や入館者数の制限を設定しているものの今年3月末までに入館者数は3万9千人を超える盛況となっている。まさに八重ブームの到来である。

ただし、ここで再度確認しておかなければならないことは、このドラマが制作されている意図である。それは言うまでもなく東日本大震災による被災者たちの復興を支援することである。この3月に仙台から石巻、女川および会津をまわってきた。仙台空港の周りは建物が流されたあと更地のままであるし、石巻のある仮設住宅には5,000人もの被災者が暮らしていた。復興への足取りは重いと感じた。まだまだ全国各地からの物心両面の支援が必要なのである。社史資料センターはこの思いを共有して歩んでいかななくてはならないと思う。

2012年度を終えて

東日本大震災から3ヵ月後、一通のメールを受け取った。差出人は、私が2009年に大変お世話になった若松城天守閣郷土博物館の学芸員の方である。震災以降、どのように連絡すればよいかもわからずにいたところに届いたメールであった。その内容は今でも忘れることができない。

メールを受け取った数日後、会津若松市へ向かった。どのような顔をすればよいかわからなかったが、学芸員の方はいつものように快く受け入れてくれた。そして、会津の現状をうかがった。そこは私が知っている会津ではなかった。

それから約1ヵ月半後の2011年8月11日、同志社大学は、東北・福島に根づく不屈のプライドと復興を目指す被災地へのメッセージを込めるといふNHK大河ドラマ「八重の桜」制作・撮影の理念に賛同し、福島県、そしてNHKへの全面的な協力をインターネット上で表明した。ここに本学の震災復興へ取り組み姿勢が確立し、センターの協力の方法も確立した。具体的には新島八重関係資料を通じた資料公開業務である。

センターの最初の仕事は、福島県が企画した『新島八重の生涯と戊辰戦争』展である。2011年12月24日、福島県庁より2人がセンターを訪問した。なんととしても『八重の桜』を通じて福島県の復興を後押ししたいという熱意がひしひしと伝わってきた。同時に、これほどまでに福島県状況が厳しいことも痛感した。この会合を通じて本学は福島県への全面的な協力を約束し、2012年9月14日から11月4日まで、白河市の白河集古苑と二本松市歴史資料館を会場に、企画段階から全面的な資料的人的協力を行った。

もうひとつの大きな仕事といえば、NHK大河ドラマ特別展「八重の桜」への資料的人的協力

である。貸出資料数約60タイトル、企画委員会への参加など、福島県と同様に全面的な協力を行った。本年、東京、福島、京都で開催されることになっており、八重の資料が多くの人々の目に触れ、一人でも多くの方々の意識が福島へ向くことを願ってやまない。

このような外での仕事の一方で、本来のアーカイヴズとしての資料業務は、過去に例を見ないほど激増した。大河ドラマという未知の状況下で、従来のルーティーンに加え、日増しに増加する写真提供やメディア取材に代表される資料業務を、センターでは十分とは言えない限られた人数で対処して来た。センターの人員全てにとってアーカイヴズとしての役割を全うするという信念と震災復興のためという共通の想いが精神的な支えであり、やりがいであったと信じる。

2013年になり、いよいよ大河ドラマ「八重の桜」が始まった。新聞では経済効果が報じられるなど、その影響は日々新聞紙上で見る。しかし、本学が考えるべきはポスト「八重の桜」であろう。福島県の人々が最も心配することは、大河ドラマは一年間のみということである。長い復興への道のりのために、本学ができることが何か、継続的に考え、行動していく必要がある。福島県は新島襄の妻・八重と、同志社の創立者で八重の兄・山本覚馬の生まれ故郷である。混沌とした明治初期の京都での学校設立に尽力した恩人に対し、今こそ私たちができることを自ら考え行動するときなのではないだろうか。

小枝 弘和
社史資料調査員

資料業務

1. 資料整理

社史資料センター網別蔵書冊数（逐次刊行物は除く）

（2012年3月31日現在）

	00	10	20	30	40	50	60	70	80	90	合計	比率
0 総記	1	51	208	36	82	4	39	24	106	1,628	2,179	19.7%
1 哲学	15	8	175	32	25	149	46	21	83	1,405	1,959	17.7%
2 歴史	34	1,067	105	39	0	32	0	0	1,001	214	2,492	22.4%
3 社会	126	158	149	143	9	12	156	1,919	14	24	2,710	24.4%
4 自然	29	22	14	10	10	19	32	23	20	58	237	2.1%
5 技術	10	13	53	8	7	4	5	8	10	14	132	1.2%
6 産業	12	23	1	0	0	2	4	24	10	3	79	0.7%
7 芸術	26	2	81	9	13	22	41	11	24	11	240	2.2%
8 言語	8	70	17	67	9	4	0	2	1	10	188	1.7%
9 文学	31	603	117	92	23	2	0	0	2	1	871	7.9%

※日本十進分類法による分類

総冊数 11,087冊

2. 資料(写真)提供

本年度は、2013年1月からのNHK大河ドラマ「八重の桜」放映にともない、八重及びそれに関係する写真提供が激増し、例年の10倍以上の件数となった。そのため本号では写真提供機関・企業名を掲載するにとどめ、従来は明記していた依頼年月日、媒体（掲載誌・紙名、番組名等）、掲載テーマについては省略した。

アド・アソシエイツ

会津武家屋敷

會津藩校日新館

会津若松市

会津若松市観光公社

アップルウェイ

アルテスパブリッシング

安中市役所

ベストセラーズ

ピーディーエス

ボイス・エージェンシー

文藝春秋社

ブライトスター・プランニング

ブレーン

ブリッジ

茶道裏千家淡交会

筑摩書房

調布市東部公民館

中電不動産、校友会愛知支部

中外日報社

中国新聞社

中日新聞浜松中日文化センター

中日新聞栄文化センター

中日新聞社文化芸能局栄中日文化センター

ダウンビート

ディスカバリー広告社

エー・アール・ティ

エディキューブ

エディットプラス

エグザム

エキスプレス

NHK 福島放送局

NHK ブラネット近畿

NHK サービスセンター

エヌ・シー・ピー

ファルコビジネスサポート

福井新聞社文化生活部

福島中央テレビ

福島放送

福島県会津農林事務所農業振興普及部

福島県知事直轄広報課

福島県中小企業団体中央会業務推進課

福島県観光物産交流協会

福島県観光交流課

福島県県南地方振興局

福島県企業立地課

福島県広報課・ゴージャフィックス

福島県二本松市産業部観光課

福島県立葵高等学校

福島県立博物館

福島県立博物館友の会

福島県白河市
福島キッズ博
福島空港ビル
福島民報社
福島民友新聞社
福島テレビ
福鉄観光社
フロンティアエイジ
風日舎
学研マーケティング
学研パブリッシング
銀の鈴社
極上の会津プロジェクト協議会
伍興
群馬よみうり新聞社
グランドプリンスホテル京都
グラス
グルーポピコ
はちどり
八王子市教育委員会
はこだて外国人居留地研究会
白陽社
阪急交通社新潟支店
原書房
播磨乃国観光バス
はるなか
ひでみ企画
ひこね市文化プラザ
北國新聞文化センター
ほまれ酒造
本郷法人会
星野画廊
ホテル日航プリンセス京都
池坊華道会
育鵬社
イメージ・クリエーション
いのちのことば社
一宝堂
イーストプレス
イストラボ合同会社
伊丹市教育委員会事務局
いわき絵本と朗読の会
岩崎書店
実業之日本社文芸出版部
ジャブリノ/ヒャクパーセント
ジャスト

女性のひろば
上毛新聞社事業局出版部
角川書店編集部
海竜社
神奈川新聞社
関西福島県人会事務局
カラーズ・ファクトリーズ
軽井沢エフエム放送
河出書房新社
ケイ・コミュニケーション企画
キャップ
キリスト教書総目録刊行会事務局
小池書院
国家公務員共済組合連合会
コミニケ
コープこうべ
神戸史談会
神戸新聞文化センター
神戸新聞旅行社
神戸市立博物館学芸課
光文社
講談社
広報社
廣濟堂
交通新聞社
熊本日日新聞社文化生活部
熊本市役所
クラブツーリズム
クレッシエント
クリエイティブ・オルエッジ
クロッシング
共同テレビ第二制作
共同通信社
京都文化博物館
京都プライトンホテル
京都府庁観光課
京都銀行法人部
京都ホテル
京都府立総合資料館
京都センチュリーホテル
京都市観光協会
京都新聞社
京都漱石の会
京都商工会議所
京都タワーホテルチェーン
京都トヨペット

休暇村協会休暇村裏磐梯
毎日新聞旅行
毎日新聞社
マイストリート
舞鶴市社会教育課舞鶴市郷土資料館
松山市シルバー人材センター
メイエイ企画
名鉄観光サービス
三重県立熊野古道センター事業部
宮帯出版社
長野市民新聞社
長岡市役所商工部観光課
ネクサス
ネクスコ東日本
日本文芸社
日本電気協会新聞部
日本華道社
日本キリスト教団福岡警固教会
日本刊社教団出版局
二本松市歴史資料館
日本旅行
日本赤十字社
日本赤十字看護大学
日本赤十字社富山県支部
新潟県長岡市立中央図書館
新島学園記念事業
新島学園収蔵史料調査ボランティア
新島学園短期大学
日経 BP 社
西会津町商工会
日進堂印刷所
日新航空サービス
日テレアクセスオン
ノトーリアス
ノートルモンド社
農協観光中四国統括事業部
農研機構野菜茶業研究所
のぞみ
オフィスバンズ
オフィス五稜郭
オフィスミヤザキ
岡山県高梁市総務部歴史まちづくり課
大阪よみうり文化センター
桜風舎
パーソナル企画
プラメイク

ライト・エージェンシー
 歴史人
 歴史春秋出版株式会社
 レマン
 リナリマ
 ロイヤルコミュニケーション
 ロコモーション
 ル・プロジェ
 るるぶ FREE 福島
 旅行新聞社
 霊山顕彰会 霊山歴史館
 佐賀市教育委員会
 埼玉新聞社
 さくら編集工房
 三猿舎
 サンケイリビング新聞社
 三紅
 笹の河酒造株式会社
 セブンカルチャーネットワーク
 西武トラベル
 清流出版
 制作会社おもちゃあ
 青春出版社
 世界文化社
 シーホーフジャパン
 新人物往来社
 新教出版社
 進和クリエイティブセンター
 白石商工会議所
 白河観光物産協会
 しらかわ歴史のまちづくりフォーラム

白川書院
 シーズ広告制作会社
 蘇峰会
 スーパーテレビジョン
 スリーシーズン
 スタジオビビ
 スタジオシップ
 祥伝社
 小学館
 昭和エーテル株式会社
 シュープレス
 集英社
 集出版社
 たびゲーター
 只見町観光まちづくり協会
 高梁市観光協会
 宝塚ゴルフクラブ
 高槻市立中央図書館
 タミワオフィス
 淡交社
 タス
 帝国データバンク郡山支店
 帝産観光バス
 テレビ朝日
 テレビマンユニオン
 テレビユー福島
 テレコムスタッフ
 徳間書店
 徳富蘇峰記念塩崎財団
 徳富蘇峰蘆花生家
 図書印刷同朋舎

東部トラベル
 東交バス
 東京ニュース通信社
 東京書籍
 東洋印刷工業
 ウイザス
 ウランティア
 浦安市国際交流協会
 潮書房光人社
 若松幼稚園
 若松城天守閣郷土博物館
 ワンステップ
 山形放送
 山川出版社
 山中湖文学の森 徳富蘇峰館
 柳津観光協会
 ヤシロ広告
 よみうり京都文化センター
 読売旅行さくら阪神・奈良営業所
 読売新聞京都総局
 読売新聞大阪本社社会部
 読売新聞京都総局
 読売新聞東京本社文化部
 米沢市役所産業部商工課
 洋泉社
 ユニオンシナプス
 ユニプラン
 有隣堂
 財界ふくしま

学芸員実習について（新島襄・八重旧蔵資料の整理など）

昨年に引き続き大学からの「学外実習」を受け入れた。計12名を3つのグループに分けて、8月第4週、9月第1週、第2週に各グループ3日間ずつ実施した。3グループとも「同志社社史資料の調査と整理」をテーマとし、第41回Neesima Room企画展「同志社スポーツ」の開催にともなって寄贈された資料（大学相撲部関係資料等）などの整理を行った。

一方、女子大学の「館園実習」では、1名の学生を受け入れた。通常の講義と未整理の新島襄・八重旧蔵写真のリスト作成、保存箱での整理を行った。



展 示

2012年度は2回のNeesima Room企画展を実施し（一つは継続中）、学外では福島県等、学内ではオープンキャンパス2012、ホームカミングデー2012、新島会館、ラーネッド記念図書館への展示協力を行った。

1. Neesima Room企画展

第41回企画展

2012年4月1日(日)～7月31日(火)
 テーマ：「同志社スポーツー若草萌えてー」
 協賛：同志社スポーツユニオン
 資料協力：同志社スポーツアトム編集部
 来訪者数：延べ4570名(特別展を含む)
 実施日数：112日
 ※うち3/31(土)内覧会78名
 8/5(日)オープンキャンパス610名



第42回企画展

2013年3月26日(火)～6月30日(日)
 テーマ：「会津と八重ー八重を育てた故郷ー」
 共催：福島県、会津若松市、福島県観光物産交流協会
 協力：福島県立博物館、若松城天守閣郷土博物館、会津武家屋敷、白河市歴史民俗資料館、二本松市歴史資料館
 後援：白河市、二本松市、京都府、京都市、NHK 京都放送局

第42回 Neesima Room 企画展

会津の至宝、京都・同志社へ

八重を育てた故郷

2013年
 3月26日(火)～6月30日(日)

会場・Neesima Room
 〒910-8585 福島県白河市本町1-1-1

開催日・会期：3月26日(火)～6月30日(日)
 開館時間：10時～17時(土・日・祭日も10時～17時)

公開講演会
 6月15日(土) 13時30分～15時30分
 講師：奥島 清子 氏(白河女子大学 文学部 教授)
 題目：「八重の故郷 会津若松」

協賛：同志社ユニオン、同志社スポーツアトム編集部、同志社女子大学、同志社大学、同志社文芸会、同志社新聞社、同志社出版部、同志社印刷局、同志社印刷所、同志社印刷センター

共催：福島県、会津若松市、福島県観光物産交流協会
 協力：福島県立博物館、若松城天守閣郷土博物館、会津武家屋敷、白河市歴史民俗資料館、二本松市歴史資料館
 後援：白河市、二本松市、京都府、京都市、NHK 京都放送局

【お問い合わせ】 同志社史料センター TEL 075-231-2242 E-mail j-studies@st.doshisha.ac.jp

2. 展示協力

福島県、白河市、二本松市、財団法人福島県観光物産交流協会への展示協力

「特別企画展 白河・二本松同時開催
新島八重の生涯と戊辰戦争展～福島の流れる
矜持と覚悟～」
(2012年9月14日～11月4日)に、八重「懐剣拵」
など120点を提供

若松城天守閣郷土博物館への展示協力

「平成24年度若松城天守閣郷土博物館企画展
『京都守護職拜命百五十年と新島八重』展」
(2012年9月14日～11月4日)に、山本覚馬肖像
画など22点を提供

NHKプロモーションへの展示協力

「江戸東京博物館 開館20周年記念
2013年NHK大河ドラマ特別展 八重の桜」
(2013年3月12日～5月6日)に、新島八重宛新島
襄書簡など100点を提供



オープンキャンパス

2012年8月5日(日)開催のオープンキャンパス2012で、第41回Neesima Room企画展を臨時開室。社史資料調査員による展示説明会(3回、各30分程度)を実施。

ホームカミングデー2012

2012年11月11日(日)開催のホームカミングデー2012で、特別企画「新島八重の生涯」パネル展を実施。

新島会館

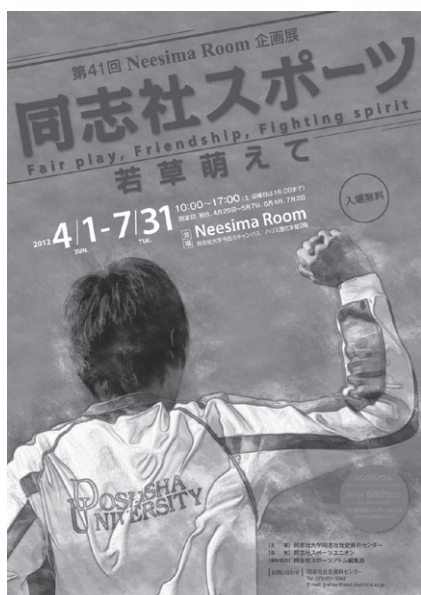
「目的の大なる人物を一創設期の学生たち」
(2011年4月1日～2012年8月27日)をテーマに、写真パネル11点を展示。
「新島八重の生涯」(2012年9月1日～2013年3月31日予定)をテーマに、新島八重関係資料(レブリカ)と写真パネルを展示。



ラーネッド記念図書館

「同志社スポーツ一若草萌えて」(2012年11月1日～2013年2月28日)をテーマに、写真パネルなど16点を展示。3月1日より継続してパネルのみ展示中。

公開講演会・シンポジウム



Neesima Room 企画展のテーマに添った講演会を春学期に実施した。

第41回Neesima Room企画展

演 題：「私の同志社スポーツ-学生・社会人として-」

パネリスト：服部 祐児(相撲部OB)

井上 和代(空手道部OG)

宮部 加奈子(水泳部OG)

真銅 正宏(学生支援センター所長)

司 会：露口 卓也(同志社社史資料センター所長)

日 時：2012年6月2日(土)

場 所：寒梅館ハーディーホール

参加者：124名



研究活動

機関誌の刊行や第1部門研究(新島研究)および第2部門研究(同志社社史研究)の研究会は次のとおりである。

1. 第1部門研究(新島研究)研究会(代表 本井 康博)

第119回例会	2012年4月9日(月) 『新島研究』103号論評会 「同志社英学校と森永西洋菓子製造所—創始者たちの帰国より死に至るまで—」 報告者: 森永 長壹郎 「新島八重のブラック・ホール—前夫・川崎尚之助のその後—」 報告者: 吉海 直人 「新島八重の雑誌記事集成」 報告者: 山梨 淳
第120回例会	2012年5月14日(月) 「新島研究史上の杉井六郎と河野仁昭」 杉井六郎氏について 報告者: 井上 勝也、本井 康博 河野仁昭氏について 報告者: 大鉢 忠、北垣 宗治、花月 亜子
第121回例会	2012年6月11日(月) 「新島襄の足跡を辿る～風間浦、函館、札幌」 報告者: 田島 繁
第122回例会	2012年7月9日(月) 「北米における大久保真次郎の教会論など」 報告者: 森田 喜基
第123回例会	2012年8月4日(土) 全体テーマ「新島八重研究の現状と課題」 研究発表「新島八重と茶の湯」 報告者: 大越 哲仁 書評 ①藤本 ひとみ『幕末銃姫伝』 論者: 森 一郎 ②由良 弥生『新島八重と幕末』 論者: 大越 哲仁 ③早川 廣中・本井康博『新島八重と夫、襄』 論者: 森永 長壹郎 ④岩澤 信千代『不一 新島八重の遺したもの』 論者: 井上 勝也 ⑤早乙女 貢『明治の兄妹 新島八重と山本覚馬』 論者: 大鉢 忠 ⑥本井 康博『ハンサムに生きる—新島襄を語る(7)』 論者: 坂本 清音 ⑦吉海 直人『新島八重 愛と闘いの生涯』 論者: 小崎 眞 ⑧吉村 康『歴史物語 新島八重の生涯—幕末のジャンヌ・ダルク』 論者: 宮澤 正典 ⑨本井康博『日本の元気印・新島八重』 論者: 太田 雅夫 ⑩保阪正康『新島八重と襄』 論者: 北垣 宗治
第124回例会	2012年10月15日(月) 「新島(山本) 八重について」 報告者: 坂井 誠

第125回例会	2012年11月12日(月) 「Liberal Arts Education とは何か」 報告者：井上 勝也
第126回例会	2012年12月10日(月) 「南山義塾の創立から消滅まで—南山義塾と同志社—」 報告者：森永 長壹郎
第127回例会	2013年1月21日(月) 「現代教育と新島襄—現場教師の視座からの一考察—」 報告者：頼富 雅博

2. 第1部門機関誌

『新島研究』第104号 A5判 237頁 2013年2月28日発行

論 叢	新島襄と吉原重俊(大原令之助)の交流 虎口からの脱出 —Jpseph Neesima と Cap.Andrew Bartlett との交流— 南山義塾の誕生から消滅まで —南山義塾、同志社英学校、自由民権運動— 新島襄の母とみとその先祖 新島八重と茶の湯 山本覚馬と新島襄Ⅲ	吉原 重和 布施田哲也 森永長壹郎 関口 徹 大越 哲仁 井上 勝也
エッセイ	新島襄と「梅」	多田 直彦
杉井六郎氏、河野仁昭氏追悼	杉井六郎先生を偲ぶ 新島研究、同志社史研究上の杉井六郎教授と河野仁昭室長 河野仁昭さんのことども 河野仁昭先生 追悼	太田 雅夫 井上 勝也 北垣 宗治 大越 哲仁
書 評	藤本ひとみ著『幕末銃姫伝—京の風会津の花』 由良弥生著『新島八重と幕末一会津に咲いた八重の桜』 吉村康著『歴史物語 新島八重の生涯—幕末のジャンヌ・ダルク』 岩澤信千代著『不一—新島八重の遺したもの—』 早乙女貢著『明治の兄妹 新島八重と山本覚馬』 本井 康博『ハンサムに生きる—新島襄を語る(7)』 早川廣中・本井康博著『増補改訂 新島八重と夫、襄一会津、京都、同志社—』 吉海直人著『新島八重 愛と闘いの生涯』 本井康博著『日本の元気印・新島八重』(新島八重を語る・別巻(-)) 保阪正康『八重と新島襄』『サンデー毎日』 連載1回~31回(2012年1月29日~9月9日)	森 一郎 大越 哲仁 宮澤 正典 井上 勝也 大鉢 忠 坂本 清音 森永長壹郎 小崎 眞 太田 雅夫 北垣 宗治

3. 第2部門研究（同志社社史研究）研究会（代表 森 靖夫）

第14回例会 | 2012年12月6日(木)
「近代日本教育史の中のキリスト教学校—フェリスの場合を中心に—」
報告者：鈴木 美南子

4. 機関誌

『同志社談叢』第33号 A5判 275頁 2013年3月1日発行

論 叢	初期同志社の岸和田伝道の初穂 —同志社女学校第一回卒業生、山岡登茂と田代初の場合—	坂本 清音
	北村透谷と増野悦興のキリスト教認識 —内部生命論と信仰的実験—(一)	滝澤 民夫
資料紹介	新出資料の紹介「川上左七郎宛新島襄書簡」 〈新出資料〉徳富蘇峰記念館所蔵新島襄書簡について(1) —二通の新島書簡 徳富猪一郎との往復書簡として—	布施 智子 石倉 和佳
	新出資料の紹介 同志社時代の山室軍平史料 —「雑記第二号」— (続)	本井 康博 室田 保夫
	田代初「話之覚」(明治十四年一月 同志社女学校における「奨励の覚書」)	坂本 清音
	デイヴィスとクラークの往復書簡(10)	森永長壹郎
	同志社社史資料センター所蔵 徳富蘇峰宛ジョージ・ケナン書簡	澤田 次郎

5. 刊行物

『同志社大学 同志社社史資料センター報』第8号(2011年度)
(2012年5月発行)

パンフレット『同志社の文化財建築物』増刷
(2012年5月発行)

パンフレット『新島旧邸』改訂
日本語・英語併記(2012年6月発行)

『新島八重子回想録』復刻版
永澤 嘉巳男・編 同志社大学出版部・発行
(2012年9月発行)

パンフレット『同志社社史資料センター』改訂
(2012年12月発行)

第170回 新島襄生誕記念会

日時：2013年2月12日(火) 17:00～19:30

場所：同志社新島会館大研修室

表彰

新島研究論文賞 あさくらゆう（歴史研究家）

記念講演

演題：一途に生きた男の生涯 川崎尚之助

講師：あさくらゆう（歴史研究家）

新島襄生誕記念懸賞論文入選者（2012年度）

【中学校の部】

- 最優秀賞 五島 桜子（同志社中学校3年）
「新島襄の黒い眼 徳富蘆花『黒い眼と茶色の目』を読んで」
- 優秀賞 村田 恵理（同志社中学校1年）
「新島襄が同志社にこめた祈り」
安元 明日香（同志社女子中学校1年）
「新島襄・封建的束縛からの自立～家族の愛と真の自由との狭間で～」
- 佳作 金山 侑香里（同志社女子中学校1年）
「新島襄と八重の出会い～時代背景から浮かび上がる八重像～」
熊谷 凜香（同志社女子中学校1年）
「新島襄と『根回し力』」
酒井 香朱美（風間浦中学校2年）
「新島襄と脱国」

【高等学校の部】

- 最優秀賞 高橋 叶子（同志社国際高等学校3年）
「日韓の架け橋となった詩人—尹東柱」
- 優秀賞 奥田 脩平（同志社国際高等学校3年）
「同志社が強いられた戦時中の困難」
- 佳作 今道 安純（同志社国際高等学校3年）
「幻の東華学校～約5年半の軌道～」
狭間 りりあ（新島学園高等学校3年）
「新島襄の『夢』そして『志』」
高橋 りつ（新島学園高等学校3年）
「新島襄と聖書との出会い」

【大学・大学院の部】

- 優秀賞 藤本 憲正（同志社大学大学院神学研究科博士後期課程1年次）
「死者に集う—新島のキリスト教から読み取られる問い—」

新島旧邸

ボストンの友人J. M. シアーズの寄付によって建てられた新島襄・八重夫妻の私邸で、1879（明治11）年竣工の和洋折衷の木造2階建て住宅。1985（昭和60）年に調度・家具類とともに京都市有形文化財に指定されている。これまで期間を限定して公開してきたが、2013年NHK大河ドラマ「八重の桜」の影響で、見学者が急増することが予想された。この影響が見込まれる間を「特別公開期間」とし、従来の公開方法を変更した。この措置は、旧邸を文化財として安全に、かつ永続的に保存していくための見学者数の制限が主な目的である。具体的には、一日の入館人数の上限を500人と設定し、公開時間を午前・午後に分け、邸内へ入る見学者が一時に固まらないよう、見学者を分散させるようにしている。また、見学は事前予約制とし、インターネットによる受付システムを整備した。邸内の見学は、一方通行の順路を設定し、母屋2階の見学は、床の強度の関係から見学を禁止とした。これらの一連の措置は、大河ドラマの影響で特に見学者増が見込まれる2012年9月～2014年3月まで行う予定である。

なお、変更の概要は以下の通り。

特別公開日	2012年9月1日～2013年12月27日（予定）まで
開館時間	10:00～16:00（入館受付は15:30まで）
休館日	火曜日、年末年始12月28日～1月5日、夏期8月12日～16日
見学対象	母屋1階と附属屋
見学申込	個人・団体ともインターネットによる予約申込制（事情によってFAXも可）

なお、2012年8月まで、および特別公開期間終了後は、従来通りの以下の公開方法となる。

■通常の公開日

3月～7月、9月～11月の毎週水・土・日曜日（ただし祝日は除く）

春・秋の京都御所一般公開期間中の毎日、および11月29日（同志社創立記念日）

■公開時間

10:00～16:00

〈2012年度見学者数〉

4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
1,327人	1,468人	1,264人	1,060人	1,365人	2,212人	3,576人	2,616人	5,725人	7,810人	10,710人	39,133人



新島旧邸内部



庭

委員会

同志社社史資料センター委員会委員(2012年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
土田 道夫	教務部長	伊藤 博子	中学校・高等学校教諭
横川 隆一	企画部長	瀧 英次	香里中学校・高等学校教頭
吉岡 康博	事務局長	辻村 好	女子中学校・高等学校教頭
百合野正博	人文科学研究所長	敦賀 昭夫	国際中学校・高等学校教諭
圓月 勝博	歴史資料館長	本井 康博	神学部教授
吉岡 康博	法人事務部長	出原 政雄	法学部教授

同志社社史資料センター運営委員会委員(2012年度)

露口 卓也	同志社社史資料センター所長	出原 政雄	法学部教授
百合野正博	人文科学研究所長	山田 邦和	女子大学現代社会学部教授
吉岡 康博	法人事務部長	辻村 好	女子中学校・高等学校教頭
本井 康博	神学部教授	竹山 幸男	中学校・高等学校副校長

事務室	所長	露口 卓也
	参与(部長待遇)	亀井 修二
	事務長	落合万里子
	担当課長	沼井 哲男 ※11月から
	社史資料調査員	小枝 弘和
	社史資料調査員	布施 智子
	契約職員	多賀 晴美
アルバイト	3名	

新島旧邸 アルバイト 3名(5名で交代勤務)
※7月まで
※9月からは2014年(予定)までは(株)キャリアパワーに委託

Neesima Room 院生アルバイト 1名(8名で交代勤務)

同志社社史資料センター規程

2004年4月24日制定
2004年5月 1日施行

改正 2010年2月18日
2012年2月 6日

(設置)

第1条 本学同志社社史資料センター(以下「センター」という。)を置く。

(目的)

第2条 センターは、創立者新島襄並びに同志社関連資料の収集、整理、保存及び公開業務を継続、発展させ、同志社創立以来の歴史と伝統を後世に継承していくとともに同志社教育の充実と発展に寄与することを目的とする。

(事業)

第3条 センターは、前条の目的を達成するために、以下の事業を行う。

- (1) 同志社社史資料の研究、収集、整理、保存及び公開に関すること。
- (2) 新島研究に関すること。
- (3) 同志社社史編纂に関すること。
- (4) 『同志社談叢』の発行に関すること。
- (5) Neesima Room の管理運営に関すること。
- (6) ハリス理化学校記念展示室の管理運営に関すること。
- (7) 新島遺品庫の管理運営に関すること。
- (8) 新島襄旧邸の管理運営に関すること。
- (9) 新島襄及び同志社建学の精神についての啓蒙活動に関すること。
- (10) その他センター設置の目的に照らして必要と認められる事業

(所長)

第4条 センターに所長を置く。

- 2 所長は、学長が任命し、センターの業務を統括する。
- 3 所長の任期は1年とし、再任を妨げない。

(同志社社史資料センター委員会)

第5条 センターに同志社社史資料センター委員会(以下「センター委員会」という。)を置き、以下の事項について審議する。

- (1) センターの事業に関すること。
- (2) 社史資料調査員の候補者推薦に関すること。
- (3) その他必要な事項

(センター委員会の構成)

第6条 センター委員会は、次の者をもって構成し、委員は学長が委嘱する。

- (1) 所長
- (2) 教務部長、企画部長、事務局長、人文科学研究所長、歴史資料館長及び法人事務部長
- (3) 女子大学、中学校・高等学校、香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校、から各1名
- (4) 学識経験者若干名

2 第1項第3号に掲げる委員は、各学校長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

3 第1項第4号に掲げる委員は、所長の推薦により学長が委嘱し、その任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 センター委員会は、所長が招集し、議長となる。

5 センター委員会は、委員の過半数をもって成立し、議事は出席者の2分の1以上の賛成をもって決する。ただし、第5条第2号に係わる議決は出席者の3分の2以上の賛成を必要とする。

(運営委員会)

第7条 センター委員会に同志社社史資料センター運営委員会(以下「運営委員会」という。)を置く。

2 運営委員会は、第3条に掲げる事項について計画立案し、センター委員会の議を経てその実施にあたる。

(運営委員会の構成)

第8条 運営委員会は、次の者で構成する。

- (1) 所長
 - (2) 第6条に掲げる者のうち所長が任命する者若干名
 - (3) 所長が必要と認められた者若干名
- 2 委員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 3 委員会は、所長が招集し、議長となる。

(事務室)

第9条 センターに事務室を置く。

- 2 事務室に職員若干名を置き、センターの事業、委員会に関わる事務、その他必要な事務を行う。
- 3 センターの事務組織は、同志社大学事務機構規程に定めるところによる。

(社史資料調査員)

第10条 事務室に社史資料調査員たる職員若干名を置く。

- 2 社史資料調査員は、社史資料の収集、整理、調査、企画、展示等の業務を行う。
- 3 社史資料調査員の選考に関する事項は、別に定める。

(事務の所管)

第11条 この規程に関する事務は、同志社社史資料センター事務室が行う。

(改廃)

第12条 この規程の改廃は、センター委員会の議を経て大学評議会で行う。

附則)

この規程は、2012年4月1日から施行する。

同志社社史資料センター利用要項

2009年5月19日制定
2010年5月20日改正
2012年2月20日改正

(目的)

第1条 この要項は「同志社社史資料センター規程」の第3条第1号に則り、同志社社史資料センター（以下「センター」という）が所蔵する資料等（以下「資料等」という）の利用に関する必要事項を定める。

(センターの業務)

第2条 センターは、資料等の利用に関して次の業務を行う。

- (1) 閲覧
- (2) 複写
- (3) 貸出
- (4) 参考調査

(公開と利用制限)

第3条 資料等は公開を原則とするが、次のものは利用を制限する。

- (1) 新島遺品庫資料
- (2) 新島旧邸文庫資料
- (3) 非公開を条件に寄贈・寄託を受けている資料
- (4) 破損または汚損を生じる恐れがある資料
- (5) 個人情報に関する資料
 - ア) 現存者の個人情報に関する資料については、「個人情報の保護に関する規程」（法人）と「同志社大学個人情報保護委員会内規」に則る。
 - イ) 物故者の個人情報に関する資料については、以下のものの利用を制限する。
 - ① 没後50年未満のもの
 - ② 故人の重大な秘密であり、公開により遺族等に不利益を与える恐れがあるもの
- (6) センター所長（以下「所長」という）が特に指定する資料等。

(利用時間)

第4条 資料等を利用できる時間は、大学が定める休日を除いた平日の9時から17時とする。

2 所長が必要と認めるときは、利用時間を変更することがある。

(閲覧)

第5条 資料等の閲覧は、センター内所定の場所で行うものとする。

(複写)

第6条 資料等の複写・撮影は、著作権法の範囲内で行うものとする。

- 2 破損の恐れがある資料等は、複写・撮影を制限する。
- 3 出版、放映、展示等のために複写・撮影する場合は、所定の申請書を提出し、所長の承認を得なければならない。

(貸出)

第7条 貸出ができる資料等は、同志社大学学術情報システム(DOORS)に登録された図書とし、禁帯出図書と逐次刊行物を除く。

- 2 貸出ができる者は、以下とする。
 - ア) 同志社大学学生・教職員
 - イ) 同志社女子大学学生・教職員
 - ウ) 同志社大学と同志社女子大学の図書館利用カード所持者
 - エ) センターが設置する部門研究の参加者
 - オ) その他、所長が特に認めたもの

3 貸出冊数および貸出期間は、本学図書館の貸出要領に準ずる。

4 返却を延滞した場合は、当該資料を返却するまで貸出を停止する。

(特別貸出)

第8条 出版、放映、展示等のため資料等を貸出する場合、利用者は所定の申請書を提出し、所長の許可を得なければならない。

(紛失、汚損)

第9条 資料等を紛失・汚損したとき、所長は現物または現金による弁償を求めることができる。

(参考調査)

第10条 センターは、利用者の求めにより次の範囲で参考調査を行い、情報を提供する。

- 1 同志社関係資料の検索
- 2 同志社史に関する事実

(要項の改廃)

第11条 この要項の改廃は、同志社社史資料センター委員会において決定する。

附則)

この要項は2012年4月1日より施行する。

同志社大学
同志社社史資料センター報 第9号

発行日 2013年4月30日
編集・発行 同志社大学 同志社社史資料センター
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
Tel. 075-251-3042 Fax. 075-251-3055
<http://archives.doshisha.ac.jp>

表紙写真:新島襄と八重(1876年頃)